

めでる



「春の宿泊研修・馬見岡綿向神社（日野町）にて」

2 スポットライト
東近江市における地域医療の変動と現状

—平成16年度に改正された臨床研修制度の改正に伴う当院危機からの脱却—
 国立病院機構 東近江総合医療センター 副院長 辻川 知之

4 特集
春の宿泊研修 in 東近江市・蒲生郡日野町 2016

11 地域自慢
 日野町 蒲生氏郷や近江日野商人を生んだ町

12 「人」
 丸山薬局 代表 管理薬剤師 大石 和美

14 病院紹介
 JCHO滋賀病院／友仁山崎病院

18 実習情報
 医学生・看護学生のための「病院研修・実習・見学」

22 紹介
 滋賀医科大学男女共同参画推進室／
 滋賀県医師キャリア・サポートセンター

24 調査
 2016年3月に卒業した医学生は
 進路をどのように決めたのか

25 報告
 開催報告／参加報告／ご入会・ご寄附のご案内／
 編集後記

Contents

東近江市における 地域医療の変動と現状

— 平成16年度に改正された臨床研修制度の改正に伴う
当院危機からの脱却 —



国立病院機構 東近江総合医療センター 消化器科（副院長）
滋賀医科大学 総合内科学講座（地域医療支援）教授

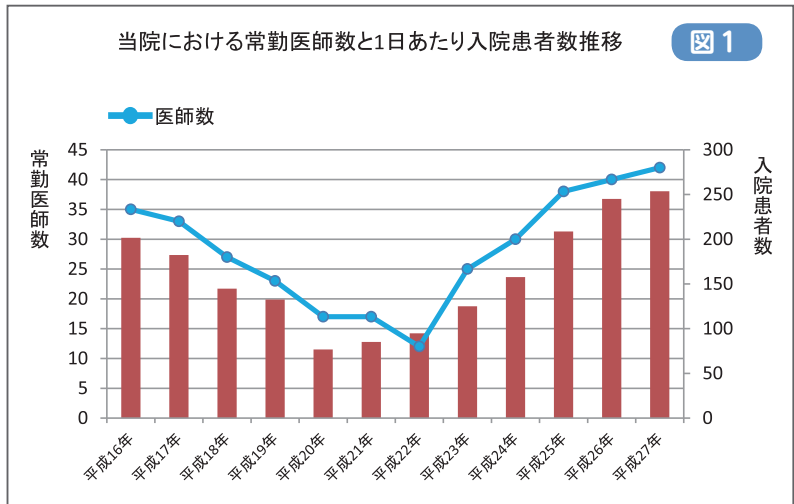
辻川 知之

東近江市は平成17年2月11日に八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町の1市4町が合併して誕生し、その後平成18年1月1日に能登川町、蒲生町が編入され、琵琶湖岸から鈴鹿山脈に至る東西に長い市域となっています。東近江市内の公的病院は、合併前に国立八日市病院、能登川町病院、蒲生町病院があり、最も規模の大きな国立八日市病院は常勤医35名を擁する220床の総合病院で、八日市市を中心とした医療圏で中心的な役割を果たしてきました。

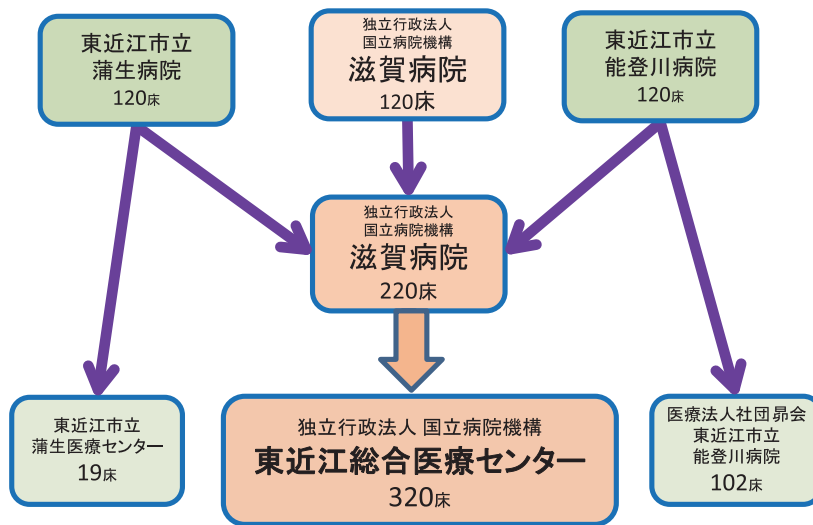
東近江市誕生の約1年前、平成16年より新医師臨床研修制度がスタートしました。この制度は今まで『人を診ずに病気を診る』と評される専門医志向から全人的医療を行うための研修を義務づけ、さらに大学病院に偏った研修を是正し将来的には地方における医師不足の解消を目標としていました。しかし、新制度発足後、大学病院に残る研修医が激減したため、京都の大学からの医師派遣に頼っていた当院からも医師の引き上げが始まったのです。平成16年から平成21年の5年間で東近江市の人口は11万6千人前後で変化ありませんでしたが、当院は名称こそ八日市病院から滋賀病院と大きくなったものの、入院患者数は202人から85人と減少し、中核病院としての役割をまったく果たせない事態に陥っていたわけです（図1）。当時私は滋賀医科大学におりましたので実情は把握しておりませんが、多くの患者さんは病気を毎に病院を変え、場合によっては近江八幡市や湖南地域へ通院せざるを得ない不便を強いられていたと聞いております。

この様な医師不足に伴う東近江医療圏の危機的状況を解消すべく、平成22年度より国の交付金を活用して東近江地域医療再生計画がスタートし

ました。滋賀県、東近江市、国立病院機構、滋賀医科大学がタッグを組み、まず東近江市の病院を再編し220床の滋賀病院から新病棟を有する320床の東近江総合医療センターへ集約すること、医師確保は地域医療支援として滋賀医科大学に総合内科学・総合外科学の寄付講座を設置し、この講座を中心として滋賀医科大学からの医師派遣を行うこととなりました（図2）。



東近江市内における病院機能の集約 図 2



また、単に医師を集め診療するだけでなく、滋賀医科大学5回生を2週間毎受け入れる臨床実習や、滋賀医科大学附属病院初期研修医2年目が経験すべき6週間の地域医療研修など、滋賀医科大学の第二教育病院としての役割も果たすことが求められました。私が言うのも何ですが、単に医局から関連病院の一つとして派遣されたのではなく、地域医療の臨床・教育・研究を担うため当院へ出向となった医師たちは非常にモチベーション高く、仕事に取り組むことができましたと考えております。

当初の構想では総合内科学・総合外科学という名称から総合医養成の拠点づくりというもう一つの目標がありましたが、実際出向してみると専門医のニーズも非常に高いものでした。そこで我々は専門医同士が連携を強化し、基礎となる総合医療の知識や技術を共有するために毎朝のカンファレンスを始めました。現在は医師のみならず学生や研修医も参加して、総合医養成のためだけでなく、救急医・総合医マインドを持った研修医や専門医を養成するカンファレンスとして大きな役割を果たしています。

当院は量だけでなく質を充実させなければならない時期に来ています。地域に根ざした中核病院として信頼されるべく、今後も病院スタッフは患者さん本位の視点に立ち、安全で満足していただける医療を提供するために研鑽しつづけてまいります。



▲朝カンファレンス



▲平成25年4月に竣工した新病棟

春の宿泊研修

in 東近江市・蒲生郡日野町 2016



～東近江市・日野町方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

3月24日(休)・25日(金)に、東近江市・日野町方面を訪問させていただいた平成27年度春の宿泊研修には、滋賀医科大学の里親登録学生を含む滋賀医科大学大学生13名、卒業後は東近江市内の病院で勤務する予定の看護専門学校生2名と准看護専門学校生1名が参加されました。

今回参加された学生は、一度社会人として働いた経験を持つ方が多く、その分地域医療に興味があって学びの多い研修になったようです。



1日目◆ 宿泊研修が始まって以来、初めての訪問先となる蒲生郡日野町へ向かいました

日野町のまちなみ (地域見学)

地元ボランティアガイドの説明を聞きながら室町時代の蒲生氏の城下町としての軌跡や、漆器や薬の行商で全国に名をはせた近江日野商人の家屋、800年以上の歴史をもつ「日野祭」の舞台となる馬見岡綿向神社の社殿を見学しました。

昼食は近江商人の旧家、旧山中正吉邸において、料理好きの地域のご婦人の皆様が作ってくださった日野の伝統料理を、庭園に面した客間で、総漆の祝い膳でいただきました。料理もおいしく豪華で、強く印象に残った昼食でした。



日野記念病院 (説明・見学)

日野町の中核病院である日野記念病院を訪問し、花澤院長の案内で院内の各所や、隣接する特別養護老人ホームを見学させていただきました。その後、地域における日野記念病院の概要等についてお話をさせていただきました。



東近江市立蒲生医療センター (説明・見学)

東近江市立蒲生医療センターでは、加藤院長のお話の後、在宅医療の専門部門である家庭医療センターの北川医師と後期研修医の横田医師によるミニワークショップを体験させていただきました。その後、センターの概要について伺い、施設見学をさせていただきました。



宿泊先の八日市ロイヤルホテルへ



八日市ロイヤルホテル (交流会)

第1部 「三方よしについて学ぶ」として三方よし研究会代表 小串輝男先生から研究会の地域での役割等について動画を交えた資料を用いて解説を受けました。また、丸山薬局代表 大石和美薬剤師からは、子三方よしチーム永源寺での薬剤師としてのご自身の活動をご講演いただきました。

第2部 東近江地域で三方よし研究会に深く関わって活動されている方々、訪問先関係者や里親の方にも参加いただき、和やかな雰囲気の中、意見交換や懇談が行われました。



▲小串三方よし研究会代表



▲丸山薬局大石管理薬剤師



2日目◆ 朝から小雪が舞う中、山々が白く薄化粧した永源寺へ向いました

永源寺・世界凧博物館東近江大凧会館 (地域見学)

永源寺では、地元ボランティアの方の説明を聞きながら梅の香の漂う境内を散策しました。世界凧博物館では東近江大凧の歴史についての説明を聞き、実物の100畳大凧や世界の凧の展示を見学しました。



東近江総合医療センター (説明・見学)

午後からは、東近江方面の中核病院であり滋賀医科大学の研修施設でもある、東近江総合医療センターを訪問しました。辻川副院長から東近江市の医療の実情や地域の病院で働くことについてのお話を伺った後、スキルスラボ研修施設において、胃カメラの操作や縫合等の体験させていただきました。



今回も、地域の方々をはじめたくさんの医療関係者等の方々にご協力いただき、地域医療について学び多い研修となりました

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

■ 宿泊研修を受け入れて

日野記念病院 院長（消化器外科） **花澤 一芳**



1時間の、日野記念病院への訪問であった。医学生13名、看護学生3名、永田教授、埜田先生、磯野先生方々教職員7名をお迎えし、3班に分れていただき、小生と、事務長、看護部長とで、病棟、手術室、老健を、主に紹介させて頂きました。

当病院は、滋賀医科大学が創設された10年後に開院し、今年で31周年となります。日野町から誘致された病院を中心とし、町が活性化されてきました。日野町は、人口は約2万2000人で、東近江市の人口がおよそ11万5千人で1/5です。歴史的には、近江商人（日野商人）発祥の地であり、また、織田信長

には、「13歳である幼少氏郷を気に入った、ただの気に入りようではなかった。」と才能豊かな資質を見抜かれ、のちは豊臣秀吉の重臣となり、会津若松城主となった戦国武将蒲生氏郷（日野城主）の生誕の地でもあります。

今回短時間ではありましたが、地域医療の現場を学生さんに理解していただくということより、如何に滋賀医科大学の卒業生と、大学の先生達により日野記念病院が、100%支えられているかを強調させて頂きました。

県下の病院がどのような組織構成になっているか、学生さんにとっては興味のないところであろう。またどのような病院に勤務するようになるかも、まだまだ遠い将来の事と思っておられるのが現状であろう。しかし、今回里親研修の温順篤実な学生さんに短時間ではありましたが、先輩達の手術室見学や、脊椎センター見学を通して、地域医療に対する今までとは異なる新しい視点を与える機会と成ったとなれば嬉しい限りであります。

2024年以後は、医師過剰（人口比）となり、また我々の想像を越えた医療形態、治療形態の変革が間違いなくやって来るなか、滋賀医科大学卒業生が滋賀7医療圏を担う主役であることに変わりはないのは事実であり、学生の皆様には更なる研鑽「眼精常ならず」と熱意に期待致します。



■ 「自ら学ぶ力を」

東近江市蒲生医療センター 内科 横田 望



平成28年3月24日、春休みの期間を利用して宿泊研修中である滋賀医科大学医学生/看護学生さんたちが、東近江市蒲生医療センターにワークショップに来てくれました。休暇期間であるにも関わらず、研修に参加された学生さんたちに、「どんな事をすれば楽しんでもらえるだろう」と考えながら、楽しく準備をしており、学生の皆さんの到着を心待ちにしていた。

当日は、「高齢者の運転免許」「子どもの健康（予防接種）」「うつ/メンタルヘルス」に関する症例を提示し、解決策を皆さんで話し合ってもらいました。「高齢者の運転免許」に関しては、近年報道されている高齢者の危険運転による事故例などを提示する一方で、地方で暮らす高齢者にとって自動車運転は日常生活の一部として、もしくは生きがいとして必要不可欠となっ



▲ワークショップの様子

ている点について議論していただきました。「子どもの健康（予防接種）」では、定期予防接種は時々刻々と変化しており、常に新しい知識のブラッシュアップが必要である事、年代によって接種を受けられている子と受けられていない子がいる事について話し合っていただきました。「うつ/メンタルヘルス」に関しては、将来、医療従事者という比較的ストレスの多い職種に就く学生の皆さんに、ストレスとの付き合い方、周りの人の精神的な不調に気づく力とその対応について考えていただきました。

学生さんたちは終始、熱心に議論をされており、その熱心さによって初心を思い出す事ができました。私自身、10年前に医学部入試の面接で、「患者さんの為に、常に新しい知識を得て向上しつづける医師になりたい」と声高に宣言していた事を記憶しています。いざ、医師になってみると日々の業務に忙殺され、有言実行とするにはまだまだ努力が足りないと感じています。特に、いわゆる「田舎」で地域医療を支えるとなると、医療水準を維持するのは自分との闘いになります。幸い、今の私は、蒲生に勤務しながらに

して、弓削メディカルクリニック内の「滋賀家庭医療学センター」の専攻医として登録し、高めあう仲間と指導医に恵まれ、必要な知識を得るのに最適な環境にいます。今回ご参加いただいた学生さんは、自ら学ぶ力を既にお持ちとは存じますが、力を発揮するには環境も大切です。皆さんと共に働き、学べる日を楽しみにしています。



▲加藤院長のお話



■ 宿泊研修に参加して(学生の声)

注) 学年は H28.3 時点のものです。

滋賀医科大学 医学科第2学年 木内 亮平

宿泊研修への参加は今回で3度目になり、参加する度に新しい発見・学びをさせていただいております。東近江市・日野町方面は、東西に広く、琵琶湖とは離れた東部では医療資源に限られる中、医療に携わる人々自らができること率先して行い、地域を支えておられることを知りました。「形から入らない、できることから始める、走りながら考える」。何から手を付けてよいかわからない程、課題が山積している中であっても、状況を良い方向に持っていくための方法として、心に留めておきたいです。

滋賀医科大学 医学科第1学年 小島 崇

病院見学では、ケーススタディーやスキルスラボでの実習を通して、頭と体を動かしながら研修できた。介護の資格を持つ方は身内の介護に追われることが多い、という話が印象に残った。

日野の旧市街を歩いてみて、町をつらぬき東にのびる街道の重みを感じた。日野商人はこの街道を往来して信用を全国へ広げていったとのこと。三方よし研究会が回転しはじめるまでに5年の歳月を要したと小串先生にうかがい、ゆっくり時間をかけて信用を培っていくことの大切さを認識した。

滋賀医科大学 医学科第3学年 北川 奈津子

今回で研修に参加させていただくのが6回目となりました。毎回、滋賀県の文化財やその地域の良いところを知ることができ、大学に入る前は琵琶湖のイメージしかなかった滋賀県の琵琶湖以外の様々な魅力を知ることができました。今では私の地元兵庫県の魅力より多く語れるのではないかと思います。

今回の研修でもたくさんのお話を学ばせていただきました。家庭医のありかたや、近江商人に始まる三方よしの考え方を活かしている医療のありかたなど、滋賀県ならではの医療について学ぶことができました。また、地域の薬剤師さんの役割について薬剤師さん自身から話を聞くことができ、大学の授業だけでは決して知ることができないことを知ることができました。



▲日野町のまちなみ散策

滋賀医科大学 医学科第2学年 八幡 亜樹

2年後期の連続的な試験スケジュールにより、机に座って、頭の中だけで思考する癖がついてしまっていた春休みでしたが、滋賀の各地を移動し、歴史や医療を肌で感じる事ができたことは、五感が刺激される有意義な体験となりました。

日野の町並みを案内して下さったボランティアの方が、散策の合間に、ご自身の手術の話や、担当の先生の対応の良かった点などを話してくださり、そういった会話からも、医療者として求められていることに気付かされる機会となりました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 熱田 桃佳

私は今回が初めての参加でした。

研修を通して私が一貫して感じたのは、研修中に会った滋賀の方々の温かさ、古都の歴史が色濃く残る街並みや緑豊かな自然美の素晴らしさでした。

町を案内して下さったガイドさんをはじめ、私達の為にお品書きを手書きで書いて下さったふるさと館の皆さんや丁寧に説明して下さった各病院の関係者の方々には大変お世話になりました。

日野記念病院での見学や蒲生医療センターのワークショップでは、普段学校では学べない事案について考えるととても良い機会を頂きました。

また東近江総合医療センターでは、スキルスラボで手術を疑似体験させて頂き、とてもモチベーションが上がりました。

このような素晴らしい研修に参加させて頂き、本当にありがとうございました。



▲永源寺 総門の前で

■ 宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科第2学年 渡邊 重之

この度、宿泊研修に初めて参加させて頂きました。日野町の街並み、永源寺、東近江大鳳会館など、県内の歴史・文化に数多く触れ、滋賀県がより一層好きになりました！

また、県内の多くの病院を見学することを通じて滋賀県の地域医療に対する理解が深まりました。

研修先でお会いした方々、滋賀医科大学関係者の方々、大変お世話になりました。本当にありがとうございました！

このような研修があれば、また是非参加したいです。

滋賀医科大学 医学科第3学年 牧野 愛

早春という言葉がふさわしい。梅から桜の季節へ移りお花見気分であった私にとって東近江の地はようやく冬から抜け出してきた、いやまだ冬だ、と言い張れる寒さであった。永源寺へと続く道路の脇には雪が残り、常緑樹の緑はあるが春の芽吹きを感じられない。そんな中、境内に入ると明るい梅の花に目を引かれた。「こんにやくの刺身もすこし梅の花」赤いこんにやくと白梅、色彩の乏しい中で芭蕉も同じことを考えたのかもしれない。2日間ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 坂井 有里枝

宿泊研修への参加は今回で3度目になります。

東近江地域へ足を踏み入れたのは人生で初めてでしたが、近江商人ゆかりの土地ということで、旧家が並ぶ街を歩き、またひとつひとつ丁寧に作っていただいた伝統料理をいただくことで、歴史を感じることができました。

病院見学では、日野記念病院は職員の皆さんが明るかったこと、また東近江総合医療センターでは研修医のための立派なスキルスラボを体験させていただいたことが印象的でした。

今回は同学年からの参加者も多く、土地についても病院についても存分に語り合うことができたので、充実した2日間になったと思います。

滋賀県堅田看護専門学校 看護学科2年 北浦 詩織

今回の宿泊研修に参加させていただき、東近江地区でそれぞれどのような取り組みをされているのかわかることができ、今後、自身が地域医療に携わりたいとの想いを再確認できました。今回特に印象的だったのは、三方よし研究会で、様々な職種の方が連携し、切れ目のない医療・介護を提供されている取り組みについてです。地域ぐるみで患者さんを支えることで、患者さんのこれまで通りの生活が出来るように支援し、また家族の孤立防止になっているのだと感じました。今回の研修で、地域医療について勉強したいという想いがさらに強くなりました。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 川崎 翠

宿泊研修には今回初めて参加させて頂きました。

東近江市と日野町の文化を学ぶだけでなく病院見学や講演会を通し、地域医療の魅力と難しさを自分の肌で感じる機会となりました。

特に蒲生医療センターでのワークショップでは現場の先生方が日々直面されている問題について皆で考えることができ、東近江総合医療センターでは最先端のシミュレータでエコーや縫合を体験させて頂きました。

地域の皆様との交流を通し、滋賀県の医療の魅力をまた一つ見つけることができました。

貴重な機会をありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科第2学年 山邊 千尋

兵庫の柏原病院しかり、長野の佐久病院しかり、どこかユニークな発展をとげる医療環境があるが、その原動力はどこからくるのかと常々不思議に思っていた。しかしこのたび、「三方よし」の裏には近江商人あり、とそのルーツが歴史に裏打ちされていることをこの合宿を通して学んだ。まさに(内輪ネタで申し訳ないが)我らが相見先生言うところの「目から鱗がバラバラっと落ちた」というやつであった。私は歴史が好きであるが、なかなか近場へ散策へ行こうとは思いつかない。このように引率していただいで近江の郷土料理・文化・歴史に触れる経験を持てたことは大変貴重であると思った。今後は病院に加え老人介護施設などの取り組みも機会があればもっと深く学ぶことが出来たらと思う。



◀ 永源寺にて



▲日野記念病院 院内見学

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀県堅田看護専門学校 看護学科2年 川口 智美

今回初めてこの研修に参加させていただきましたが、楽しく地域の名所を巡りながら東近江地区の特性を交えた医療を学ぶことが出来ました。

看護を学ぶ中で、患者さんの入院前の生活と入院中のADL、そして退院時に目指すべき目標などを視野に入れ関わる事が大切であるという理解に加えて、患者理解には地域の特性も大きな比重を占めているのだと肌で感じる事が出来ました。

時代の変化と共に医療と地域との繋がりも日々変化していきます。

私達が現場で力を発揮する際には、これまでより密な地域との連携が必要となってくると思います。この研修で感じたことを医療の現場で生かしていきたいと思っています。

滋賀医科大学 医学科第3学年 力武 里菜

今回の里親研修では東近江、日野地域を訪問させていただきました。日野は私が生まれた場所だったので今回の研修は私にとって特別なものとなりました。研修では様々な病院を見学させていただき非常に良い経験になりました。中でも私は蒲生医療センターでの家庭医に関するワークショップが印象に残りました。ワークショップでは免許返納の問題、予防接種、家庭のメンタルヘルスといった3つの事例について医師としてどんな助言をすべきかを話し合い、家庭医がその地域の中で持つ大きな役割について知ることができとても勉強になりました。家庭医は地域の中で共に生きていくことで、患者の病気を治すだけではなく患者や家族の良き理解者となりその後の生活も一緒にサポートしていける存在となることがよくわかりました。

この研修を終えて、私はますます地域医療、家庭医について興味を持つようになりました。この経験をこれからの学習に生かしていきたいと思っています。

滋賀医科大学 医学科第1学年 宮崎 大地

里親宿泊研修で滋賀県の東近江地方を訪れた。参加して良かったと感じた点を2点挙げる。

1点目は、東近江地方の病院や診療所を実際に訪れることで、この地方で働くことを具体的にイメージできたことだった。「地域医療」「総合内科」などは言葉では知っていた。だが実際に地域医療の現場を見て総合内科の方の話聞くことで、それらをより明確に想像して、そしてそれらが自分に合っている働き方なのかを考えることができた。

2点目は、学年や学校の違う学生と話す機会があり、非日常的な情報を得られたことだった。これは私の学生生活の過ごし方に原因があるのだろうが、滋賀医科大学では部活以外の上下級生、他大学の学生と接する機会がほとんどない。常に同じ人間に囲まれて生活すると視点が固まってしまう。このような状況を私は好まないため、今回の研修は良い機会だった。

これら2点は里親研修でなければ得られないことではないと思う。ただ、参加したメリットであるのは間違いないし、このような場を作っていただいた関係者の方々には深く感謝している。

滋賀医科大学 医学科第2学年 松田 正

今回初めてこの宿泊研修に参加させて頂きました。最初に訪れた近江日野商人ふるさと館では、鯛そうめんがとても口当たり良く美味しかったです。また、自分達だけのために作成頂いた、旧山中邸のパンフレットが詳細に描かれており、日野の方々の温かさを感じました。

日野の町並み見学では、『三方良し』や『陰徳』の考えに触れることができ、人として、医療人として貴重な経験ができました。



▲近江日野商人ふるさと館 おしながき

東近江総合医療センター
▼スキルスラボ体験



～日野町 蒲生氏郷や近江日野商人を生んだ町～

滋賀県の南東部に位置する日野町は、鈴鹿山脈の山麓から湖東平野に向かって広がっています。綿向山をはじめとする山々、なだらかな丘陵、田園が広がる平野や鈴鹿山脈を水源とする日野川、町の花「ホンシャクナゲ」をはじめ四季折々、フジ、サツキなどが咲き誇り、原産日野菜を育んだ自然にめぐまれた町です。

また、日野の歴史は古く、縄文時代から幾多の歴史文化を重ねてくるなかで、戦国の武将であり茶人千利休の高弟利休七哲の筆頭でもある「蒲生氏郷」や更には江戸時代に活躍した近江日野商人を生んだ町でもあります。

現在でも古い町並みがあちこちに残っており、その歴史に触れることができます。その中で、現在も日野町西大路に残る江戸時代に活躍した日野商人の一人、静岡県富士宮市で酒造業を営んだ「山中正吉」の本宅は町の有形文化財に指定されています。

この山中正吉邸は『近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」』と名称を新たにして歴史や文化に触れる場、交流、情報発信の場となるよう平成27年4月より開館いたしました。

今、日本の食生活は飽食の時代を迎え外食文化や他国の文化が著しく浸透する中で、家庭において親から子へ受け継がれてきたような食文化が失われつつあります。

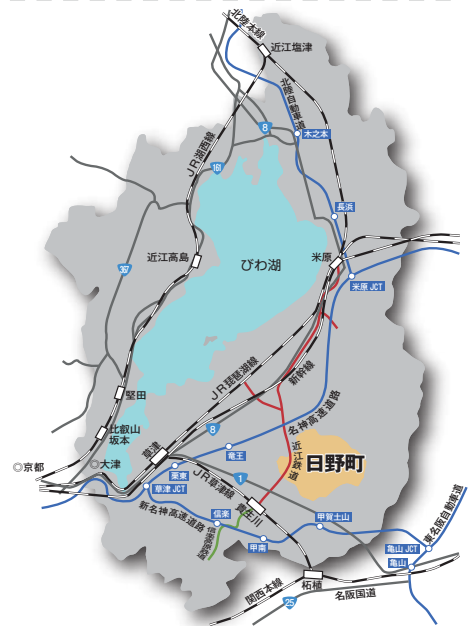
親から受け継いだ心のこもった手間暇かけた料理の味わい、土地とれたものをいただく『地産地消』の大切さ、作り手の食べる人を想う気持ちのこもった料理などを、次の世代にも伝えていきたい、と地元の主婦の方が集まりこの会が発足いたしました。

伝統料理を継承する会では『食体験レストラン』として旧山中正吉邸の客間に利用されていたお座敷で、お庭を楽しみながら手作りの温かみのある土地ならではのメニューを取り入れたふるさとご膳の提供をおこなっています。ぜひ機会がありましたら日野の昔ながらの町並みを散策し、食事を食べにいらしてください。

文：日野町地域おこし協力隊 ^{うのせ} 鵜瀬 ゆり

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

TEL：0748-52-0008 〒529-1628 滋賀県蒲生郡日野町大字西大路1264
 入館料 大人300円 小・中学生120円 [30名以上団体様] 大人250円 小・中学生120円
 開館時間：AM9：00～PM4：00 休館日：毎週月・火曜日、祝日の翌日、年末年始



旧山中正吉邸全容



新座敷



新座敷より中庭をのぞむ

ふるさとご膳のご利用について（通常時ご予約）

鯛そうめん、ぶりめたなど滋賀、日野ならではの昼食メニューをご用意しております。

ご利用はおおむね10名様以上で事前のご予約が必要となります。

ふるさとご膳：2,000円入館料込
 お茶席に関する事前ご予約

お問い合わせ（予約専用ダイヤル）
090-8456-1809



Interview

有限会社 丸山薬局 代表
管理薬剤師（プライマリ・ケア認定薬剤師）
大石 和美



〈きぐすりやお嬢と呼ばれ〉

物心ついたときから、「くすりや」の跡取り娘として育ちました。祖父や父に連れられて地域の中をごくごく自然に出かけた日々。そんな私は、将来の事など全く考えることもなく薬学部に進学しました。その大学生活の中で知った創薬の楽しさ。大学の研究室へ残ると決めた時も、父や母は何も言わずに賛成してくれました。



▲丸山薬局

そんな私が育ったこの地へ帰ることになったのは、父が65歳の時に脳塞栓で倒れたのがきっかけでした。でも、その時にもまだこの丸山薬局を継ぐことになるとは夢にも思っておらず、どちらかと言うと「店を閉める」ことをなんとなく考えていました。ただこの頃はちょうど広域病院の院外処方せんの発行が始まった時期で、処方せんの応需に明け暮れる日々が続きました。

そんなときに、ある先生との出会いがありました。その先生はやさしく、「あなたは独りで大きくなって、自分のちからだけで薬剤師になったと思っているかもしれないけれど、親御さんや地域のみなさんに暖かく見守られて、今の自分があるのですよ。一生かかっても返しきれないかもしれないけれど、そんな地域にじぶんが出来ることで恩返ししていきなさい」と、そのときはまだこの薬局を継ぐことを迷っていた私の背中をそっと押してくれました。その言葉が、今も私の原点です。

〈地域まるごとケア〉

私が所属する「地域医療福祉連携」の活動母体をご紹介します。それは子三方よしと言われる、旧市町それぞれの生活圏域で立ち上がったネットワークです。本体の三方よし研究会は2次



▲チーム永源寺月例会議



▲チーム永源寺パンフ表紙

チーム永源寺パンフ▶



医療圏域における地域医療連携ですが、現在、その本体の三方よし研究会の中では、地域別・職能別に9つのネットワークが活動しています。

私が所属する「チーム永源寺」とは、私どもの中学校区で医療福

社にたずさわる職種などが参加するネットワークのことで、顔馴染みの仲間たちと連携・協働しています。また、私たちの活動を一般の方にもPRできますようにとパンフレットも制作活用しています。

チームに参加する僧侶に書いて頂いたユニホームの言葉は、「海はあらゆる川を受け入れてひとつの塩味に変えていく」という意味だそうです。チーム永源寺は、いろいろな職種の人、いろいろな経験を積み重ねてこられた方たちが、「地域住民が、心安らぐ中に人生を終えていくことができますように」との願いで心をひとつにし

て活動を続けています。その思いを、この言葉に込めていただいたとのことでした。

チーム永源寺では、地域の人々の生活を支えるという「地域包括ケア」って、医療・介護職が集まった会議だけでは地域の人を支えきれないんじゃないか、という疑問がわいてきました。そして、専門職だけではなくて非専門職の人たちも皆で地域住民さんを支えることができるよう「地域まるごとケア」を目指しましょう、そんな話が持ち上がりました。そこで、トップだけが集まるのではなくて現場で支えるみんなが集まるとういう企画をして、何度か会議をかさね「輪つなぎ」という名前での開催となりました。定義される「地域包括ケア」とはちょっと違う方向に進んでいるようにも思いますが、「まるごとケア」もいいのではないのって係わるみんなが思っています。



▲ユニフォーム「和合海」



▲在宅訪問



▲輪つなぎ

〈充実した学生生活を送っておられるみなさんへ〉

父が倒れた17年前、地域の方から「お帰り」と声をかけていただきました。“今でも地域の一員と認めてもらえているんだ”という嬉しさがこみあげてきました。同時に“この地に帰ろう”と改めて思った瞬間でもありました。そして、せっかくこの地域に帰るのなら、自分にできることで、自分にしかできないことで、育ててもらったこの地域のみなさんへ恩返しをしたいと思いました。それからいろんなことを地域の皆さんに教えていただきました。地域のつながりや互いをおもいやる気持ち、そして何より私自身がこの地域の人達や大切な仲間たちに支えられているということ。一住民としてこの地域で私にできることは、地域で薬局を営むということだけではなく、薬剤師という専門性を通じた「まちづくり」ではないかと考えています。『くすり』が、それぞれの人が望む生きざまをじゃましないこと。旅立つ人の、また看送る人の心にもそっと寄り添える専門職でありたいと願っています。

いま、大学生生活を謳歌しておられるみなさん、いつかご一緒できる日が、ご一緒できるご縁があれば嬉しいです。チーム永源寺会員一同、楽しみにお待ちしております！



▲チーム永源寺

Introduction for Hospital

独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO)滋賀病院

院長メッセージ



院長

来見 良誠

当院は、琵琶湖の南端の大津市にあり、JR石山駅から国道一号線に沿って徒歩15分の位置にあります。病棟からは琵琶湖と近江富士が眺望できるため、富士見台という地名はここから来ているようです。

地域医療機能推進機構(JCHO)滋賀病院という名前が示すように、地域に貢献できる医療施設として、急性期医療を含む専門診療を実践するとともに、総合診療についても研修できる施設となっています。平成27年9月から滋賀医科大学地域医療教育研究拠点の活動拠点となり、初期臨床研修施設(協力型)として初期研修医の受入体制は整っています。

また、専門医を目指す後期研修医の研修も順調に進んでいます。平成28年度からは、医学生の実習を更に強化したため、総合内科の早朝カンファレンスには内科系医師・外科系医師に学生が加わり、総勢20名を超えるメンバーで症例検討を行っています。総合診療の技術を体得しながら、各診療科の専門医を目指す若手医師にとって満足度の高い医療機関として、都市近郊型の地域医療を展開しています。関連施設として、介護老人保健施設(100床)・健康管理センター(院内健診13,000件/年、バス健診30,000件/年)があり、予防・診断治療・介護という一連の医療介護福祉のシームレスな実践が大きな特徴になっています。



当院では職員が一丸となるようにロゴマークを募集し、決定したものが上図のものです。滋賀県の象徴であるマザーレイク琵琶湖をモチーフとし、その琵琶湖の形と滋賀病院の頭文字「S」とをかけ、滋賀病院がある場所をオレンジの丸としました。病院名もオレンジにすることで病院の暖かさや地域医療への発展を願いが込められています。

病院概要

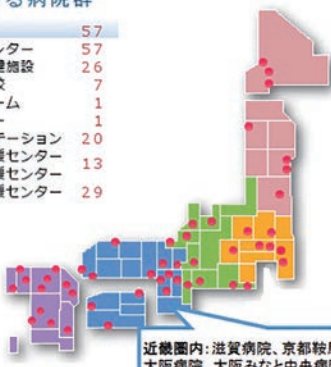
独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO:ジェイコー)は全国に広がる病院群です。

病院だけでなく、介護老人保健施設を有し、リハビリテーション体制も充実しており、超高齢社会のニーズに対応するポテンシャルがあります。このため、「急性期医療～回復期リハビリ～介護」のシームレスなサービスを提供できるグループとして、運営されています。

また、昨年JCHO本部と滋賀医科大学において地域医療に関する包括協定が締結され、当院に地域医療の教育研究活動拠点を設置しました。

全国に広がる病院群

- ・病院 57
- ・健康管理センター 57
- ・介護老人保健施設 26
- ・看護専門学校 7
- ・健康増進ホーム 1
- ・研修センター 1
- ・訪問看護ステーション 20
- ・地域包括支援センター 13
- ・在宅介護支援センター 29



近畿圏内: 滋賀病院、京都鞍馬口医療センター、大阪病院、大阪みなと中央病院、星ヶ丘医療センター、神戸中央病院、大和郡山病院



塩田学長(左)・尾身理事長(右) ▲

活動拠点では、医学生・臨床研修医の臨床能力の向上を図るための教育・研修の実践、総合診療医および総合診療に関する知識・技術・使命感を有する専門医の育成、などがその業務となります。

◇ 病院概要 ◇	
所在地	大津市富士見台16-1
T E L	077-537-3101(代)
F A X	077-534-0566
U R L	http://shiga.jcho.go.jp/
創立日	昭和28年5月1日
診療科目	内科 呼吸器内科 循環器内科 消化器内科 血液内科 腎臓内科 神経内科 外科 呼吸器外科 心臓血管外科 乳腺外科 整形外科 精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 麻酔科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 歯科 歯科口腔外科 合計25科
併設する施設	健康管理センター 滋賀病院附属介護老人保健施設 院内保育所「すみれ保育所」

研修責任者からのメッセージ

臨床研修部長 中島 滋美



A. 当院の特徴

JCHO滋賀病院の特徴は、大規模な病院にない**小回りの利く医療**（例えば、1日で必要な検査がほとんどできるので、その日のうちに診断がつき治療が開始できる）ができることで、迅速で効率の良い医療を実践しています。また、近隣の大病院にはない**特殊な機能**（健診センター、介護老人保健施設、腎センター（透析・血液浄化）、地域包括ケア病棟など）を有し、包括的な医療を提供しています。

B. 総合診療科専門医の研修プログラム

JCHO滋賀病院は、滋賀医大と弓削メディカルクリニック（東近江市医療圏の有名な家庭医療クリニック）と連携した総合診療科の**専門医研修プログラム**を基幹施設として申請中です。当プログラムは研修期間が4年と余裕があるのが特長で、**じっくりと幅広い能力**を身に付けてもらうことを目標としています。



C. 勉強会・カンファレンス

JCHO滋賀病院では、毎日合同朝カンファレンスを実施し、前日から当日朝までに入院した患者を皆で共有し、**ディスカッション**します。自分の専門分野以外の医師とディスカッションすることで知識が深まるとともに**連帯意識が深まり**、仲良くなります。研修医・専攻医は、定期的に開催される各専門診療科の主催する勉強会やカンファレンスにも積極的に参加してもらい、**専門知識を深め**てもらいます。地域や連携施設での勉強会やカンファレンス、学会にも積極的に参加してもらいます。

看護部メッセージ

看護部長 菅井 亜由美



JCHO滋賀病院の看護部は、「できる限り住み慣れた場所で生活する」を支える医療・看護を提供するために、入院時から**チーム医療**を積極的に行っています。急性期医療の必要な患者さんには最善の治療に全力を尽くし、回復期の患者さんには「医療」と「生活」両方の視点からチームで関わる事を大切にしています。

医療はヒトに対してのヒトの手で行われますのでヒトこそ『**財産**』です。看護部は、一人一人の看護師がきらりと輝ける『**人財**』にするために、クリニカルラダーを活用したキャリア開発を支援しています。院内研修、院外研修、有名講師によるe-ラーニング教育など学ぶ環境が充実していることも当院の特徴です。

合い言葉は「看護をつなぐ」「ひとをつなぐ」「ところをつなぐ」です。

「**あなたがいてくれてよかった**」そんな看護を実践して行くために一緒に頑張りましょう。



医療法人友仁会 友仁山崎病院

当院の沿革

当院の歴史は現在の会長山崎時雄が昭和42年に彦根市内に山崎外科を開院したことに遡ります。山崎は彦根住民のために長年にわたり地域に根ざした診療を行ってまいりましたが、更なる湖東の地域医療を病院として推進するために、昭和60年にここ彦根市の南、竹ヶ鼻町に友仁山崎病院を開院いたしました。消化器診療を中心とした急性期医療に加え、外科、整形外科、産婦人科、小児科を併設し、地域に根ざした医療を展開して参りました。また平成7年には消化器内視鏡センターを開院いたしました。当院は開設当初より、会員型人間ドックのシステムを導入し、予防医学にも力を入れて参りました。さらに、地域の腎臓医療に貢献すべく、平成10年には透析センターを開院し、外来患者さんを中心とした透析医療に取り組んでいます。高齢化時代に対応すべく、介護老人保健施設を病院に隣接して開設し、また病院内も、療養病棟、地域包括病棟を開院し、慢性期医療にも対応しております。



院長 高橋 雅士



病院概要

施設名：医療法人友仁会 友仁山崎病院
 所在地：滋賀県彦根市竹ヶ鼻町80番地
 TEL：0749-23-1800
 FAX：0749-23-1928
 URL：<http://www.yujin-yamazaki.co.jp>
 MAIL：info@yujin-yamazaki.co.jp

外 来

診療科：

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、腎臓・糖尿病内科、予防医学センター、糖尿病内分泌科、透析センター

病 棟

病床数：157床（一般100床、療養57床）
 1階病棟：40床（地域包括ケア病棟）
 2階病棟：50床（一般病棟）
 3階病棟：28床（療養病棟）
 4階病棟：29床（療養病棟）

現在の医療情勢と当院の今後

国は、超高齢化時代に対応すべく、地域医療構想の名の下、急性期・超急性期病棟を整理削減し、亜急性期・慢性期の医療を幅広く展開する施策に変更を行っています。このような状況において当院が目指すべき姿は、決して急性期医療中心のものではなく、内視鏡診療を中心とした急性期医療に、在宅医療をも含んだ亜急性期・慢性期の医療を加え、それらをバランスよく充実させていく、ということになります。

私が考えております、当院の今後の方向性を以下にまとめます。

- 1) トップレベルの消化器内視鏡診療の維持
- 2) 人間ドック、検診による予防医学の維持
- 3) 透析医療の充実
- 4) 消化器外科、整形外科手術件数の維持
- 5) 医療療養病棟の質的な充実
- 6) 地域包括病棟の機能の充実
- 7) 在宅医療支援を目指す体制づくり

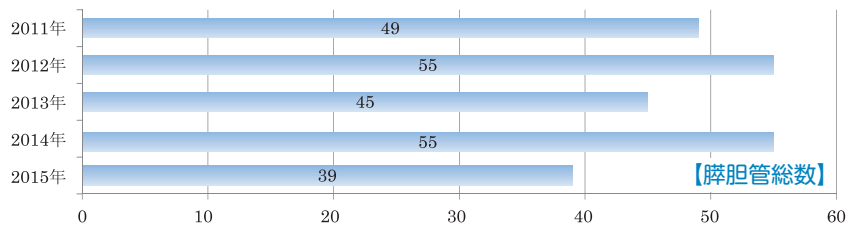
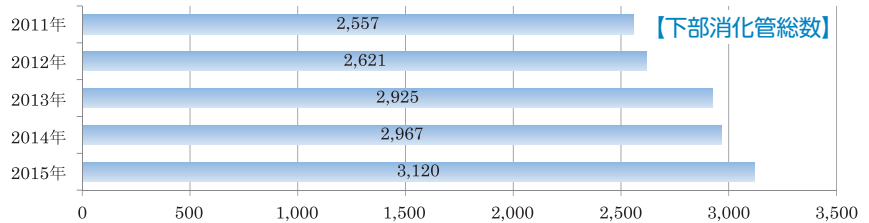
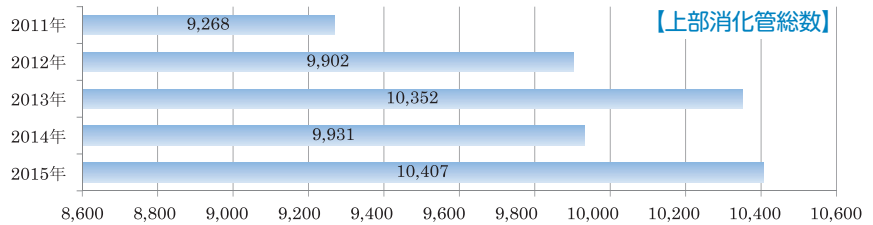
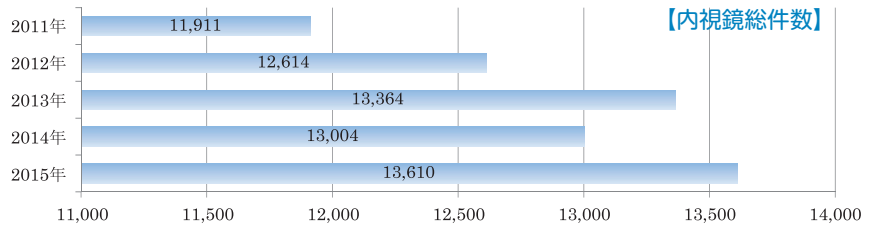
当院は157床の小規模病院ですが、“小さくてもキラリと光る”病院を目指していきます。

医学生・看護学生の皆様へ

当院はその性格上、医師の研修指定病院ではありませんし、今回の新専門医制度においても必ずしもその中心的役割を担う病院ではありません。しかし、消化器内視鏡を極めたい医師の方々には充実した内視鏡専門医への教育プログラムを有しておりますし、また在宅医療を含めた慢性期医療に興味のある医師の方々には、多くの活躍の場を用意いたしております。また、看護学生の方々には、卒業後すぐにも当院に於いて看護師としての充実した研修プログラムを受けることが可能です。とくに、急性期医療のみならず、回復期・慢性期・在宅医療等に興味をお持ちの方には最適な環境と思えます。見学はいつでも可能です。お気軽にご連絡ください。

湖東湖北地方の消化器病センターとして

“消化器内視鏡なら山崎病院”、県民の皆様からこのひとことを頂戴するために当院は開院以来30年の年月を費やして参りました。そして現在は消化器内視鏡診療に関して県内あるいは全国レベルでも質・量ともトップレベルに位置づけられているものと自負しております。表は近年の当院の消化器内視鏡の検査件数ですが、大病院での施行数をはるかに超える件数を施行していることがおわかり頂けると思います。現在は常勤の消化器内科医に加え、滋賀医大をはじめとする関連大学から派遣頂いている非常勤医で検査を行っております。



看護部メッセージ

看護部長 橋本 逸子

当院の看護部は、「心触れ合う安心と納得の医療」という病院の理念のもと、地域住民に信頼される看護専門職をめざし、人材育成を行っています。病院の機能がケアミックスのため、急性期の看護から在宅復帰を目指した地域包括病棟、慢性期のための療養病棟、また訪問看護に至るまでいろいろな局面での看護を経験することができ、多くの場面で看護の力を発揮できます。

新人教育においては、集合研修を始め4か月間のローテーション研修を行った後、スムーズなスタートが切れるよう面談を行い配属部署を決めていますので、臨床の場でのリアリティショックもなく、離職率もゼロを更新中です。

多くの経験を積む中で、自分の好きなやりたい看護を見つけ、長い看護職としての人生をどう描いていくか。ゼネラリストとして、スペシャリストとして、あるいは看護管理者としてなどキャリアデザインを描けるような人材を育成するため、自己研鑽においてはしっかりバックアップできるよう支援する体制が整えられています。また、自己の目標をあきらめることなく到達できるよう、結婚や子育て、介護などともバランスをとりながら仕事が続けられるよう、子育て支援や就業条件など看護協会のワークライフバランス事業にも参加しながら改善を検討しているため、多くの子育て世代が働き続けられているのが現状です。

当院の見学にぜひお越しください。インターンシップなども開催していますし、いつでもお気軽にお声掛けください。お待ちしております。



医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内の病院から寄せられた実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報です。ぜひご活用ください。

ホームページ<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htm>でも最新情報をご確認いただけます。

◆医学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp/					
全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談・随時	随時受付・随時実施	事務長 崎山明生	
医療法人藤樹会 滋賀里病院 http://www.shigasato.or.jp/					
全て	病棟、他関連箇所	希望に必ず	随時	077-522-5426	
医療法人社団 弓削メディカルクリニック 滋賀家庭医療学センター http://yugemed.com/					
全学年	・外来 ・在宅医療 ・通所リハビリテーション他	随時（平日）	随時	総務部 岡 yugemed@gmail.com	
医療法人恭昭会 彦根中央病院 http://www.hikone.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務長 奥 晃 0749-23-1211	
長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/					
全学年	病院見学（各診療科見学、院内案内、へぎ地巡回診療所見学等）	随時（4月～11月）	随時	管理課 0749-82-6143（直通）	
医療法人良善会 ひかり病院 http://hikaribyouin.com/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務局人事課 077-522-5411	
大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/					
4・5回生	研修医のエスコートのもとに病院研修を体験してもらう	平成28年8月1日～8月26日（予定）研修日数は1～5日とし、複数の週にまたがらないこと（詳細は当院ホームページをご覧ください）	ホームページ参照のこと	病院総務課 臨床研修担当 077-526-8516（直通）	
びわこ学園医療福祉センター野洲 http://www.biwakogakuen.or.jp/					
全学年	障害児者医療の実習・見学（病棟・外来・地域支援など）	随時（1日～応相談）	随時	伊藤 正寛（施設長） 077-587-1144	
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院 http://www.keiaikai.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務管理室 長谷出 0748-22-2222	
医療法人友仁会 友仁山崎病院 http://www.yujin-yamazaki.co.jp/					
全学年	病院見学	随時（月～金）	随時	総務課 0749-23-1800 info@yujin-yamazaki.co.jp	
独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 http://shiga.jcho.go.jp/					
全学年	病院見学、各診療科見学	随時（応相談）	随時	総務企画課 077-537-3101(代) main@shiga.jcho.go.jp	
長浜赤十字病院 https://www.nagahama.jrc.or.jp/					
全学年	①病院見学 ②病院見学会 ※いずれも詳細はホームページにて	①随時（1日～1週間程度） ②3月頃	随時	経営企画課 0749-63-2111 resident@nagahama.jrc.or.jp	
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/					
第5・6学年	外来診療、処置、手術等の見学	随時 応相談	随時	事務局 077-582-6200(代) div-manage@mccs.med.shiga-pref.jp	

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/					
全学年	病院見学 ・各診療見学、救急外来見学、 手術見学、院内案内等	応相談(半日～1週間程度)	随時受付・ 随時実施	総務課(総務課直通) 0749-68-2324	
社会医療法人誠光会 草津総合病院院 http://kusatsu-gh.or.jp/ghk/					
全学年	病院見学、各診療科見学	随時(応相談)	随時	臨床研修管理委員会事務局 077-563-8866(代) minai@kusatsu-gh.or.jp	
医療生協 こうせい駅前診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kousei/					
全学年	外来見学、在宅医療(往診、 訪問看護への同行など)等	随時(応相談)	随時	事務局 0748-71-3222(代) kousei@shigamin.jp	
医療生協 こびらい生協診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kobirai/					
全学年	外来見学、在宅医療(往診、 訪問看護への同行など)等	随時(応相談)	随時	事務担当 福塚 077-553-9696(代) kobirai@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 膳所診療所 http://shigamin.jp/					
全学年	外来診療見学、在宅医療と介 護の連携	随時(平日)	随時	事務担当 植木 077-524-8114(代) zeze@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 坂本民主診療所 http://shigamin.jp/					
全学年	外来見学、在宅医療(往診・ 訪問看護・ケアマネ、ヘルパー 同行など)、各種検査見学など	随時(応相談)	随時	事務担当 小西 077-579-7121(代) sakamoto@shigamin.jp	
浅井東診療所 http://www.hcfm.jp/access_soro/siga.html					
学習者の学年・関 心に合わせます		随時(半日～)		0749-76-8111	
近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/					
第4学年～ 第6学年	病院見学(各診療科見学等)	随時(応相談)	随時	総務課 長谷川 0748-33-3151	
医療法人社団仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp	
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
5回生～6回生	希望科の外来診療、処置、手術等、ご要 望をお伺いして調整いたします。また、当 直や研修医のモーニングカンファレンス もご希望があれば見学いただけます。	見学につきましては、随 時受け付けております。	見学希望日の 概ね2週間前	総務課 臨床研修担当 小林 077-552-1221 soumu@saiseikai-shiga.jp	
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
全学年	診療科見学、施設見学等	随時(平日)	随時	職員課 0749-22-6050	
甲賀市立信楽中央病院 http://www.city.koka.lg.jp/sch/					
全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	随時(6月～11月)	随時	中島 恭二 0748-82-0249	
独立行政法人国立病院機構 紫香楽病院 http://nho-shigaraki.jp/					
全学年	病院見学	随時	平日9時から 17時まで	庶務係長 中野 0748-83-0101 y-nakano@subsigaraki1.hosp.go.jp	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリーズ記念病院 http://www.vories.or.jp/					
全学年	病院見学	随時	随時	事務長 澤谷 久枝 0748-32-5211	
滋賀県立精神医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seishin/					
6年	1回につき学生1人。精神科医 の診療に3日間ずつついてもら います。その間に協議も。	随時、相談 3日間連続を年3回程度 (計3人)	随時	診療局長 柴崎 077-567-5001 shibasaki-morikazu@pref. shiga.lg.jp	
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
全学年	病院見学	随時	随時	総務課 077-582-8034(直通) nb01105@pref.shiga.lg.jp	
公立甲賀病院 http://www.kohka-hp.or.jp/					
全学年	病院見学(各診療科見学)	随時(土・日・祝を除く)	随時	人事課 譽田 0748-62-0234 honda.m@kohka-hp.or.jp	

◆看護学生のための「病院研修・実習・見学」

病院名・機関名				
対象者 学年等	実施内容	日程 開催期間	申込時期	連絡先
一般社団法人 水口病院 http://www.minakuchi-hp.or.jp/				
全学年	病院及び関連施設見学（希望の見学場所があれば対応します。）	応相談・随時	随時受付・随時実施	看護部長 與那城 隆幸 0748-62-1212（代表）
医療法人藤樹会 滋賀里病院 http://www.shigasato.or.jp/				
全て	病棟、他関連箇所	希望に必ず	随時	077-522-5426
訪問看護ステーションゆげ http://yugemed.com/				
全学年	訪問看護・在宅療養を支える様々なサービスについて	随時（平日の2～3日間）	随時	総務部 岡 yugemed@gmail.com
医療法人恭昭会 彦根中央病院 http://www.hikone.or.jp/				
全学年	病院見学、看護局紹介、卒後教育等々	随時	随時	事務長 奥 晃 0749-23-1211
長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/				
全学年	病院見学（看護局紹介、施設見学等）	随時（通年）	随時	管理課 0749-82-6143（直通）
医療法人社団昂会 日野記念病院 http://www.hino-hp.jp/				
全学年	病院見学・看護部紹介	随時	随時	看護部 0748-53-1201(代)
医療法人良善会 ひかり病院 http://hikaribyouin.com/				
全学年	病院見学、訪問看護ステーションでの実習体験も可	随時	随時	事務局人事課 077-522-5411
大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/				
全学年	①病院見学（看護局紹介、希望部署見学） ②インターンシップ	随時（応相談）	随時	看護局 教育担当 077-522-4607（内線6140）
びわこ学園医療福祉センター野洲 http://www.biwakogakuen.or.jp/				
全学年	障害児者医療の実習・見学（病棟・外来・地域支援など）	随時（1日～応相談）	随時	村井真理子（看護部長） 077-587-1144
医療法人敬愛会 東近江敬愛病院 http://www.keiaikai.or.jp/				
全学年	病院見学、看護部紹介	随時	随時	事務管理室 長谷 出 0748-22-2222
独立行政法人 国立病院機構 東近江総合医療センター http://www.shiga-hosp.jp				
全学年	病院見学、インターンシップ	随時（平日）	随時	看護部 0748-22-3030 402sy01@hosp.go.jp
医療法人友仁会 友仁山崎病院 http://www.yujin-yamazaki.co.jp/				
①全学年 ②3・4年生	①病院見学・新人教育説明（全学年） ②インターンシップ（3・4年生）	①は平日随時開催、土日は要相談 ②は7～8月末の期間で開催予定	随時	看護部 0749-23-1887 kang@yujin-yamazaki.co.jp
一般財団法人近江愛隣園 今津病院 http://www.oumiairinen.org/				
全学年	病院見学(看護部紹介、施設見学)	随時	随時	総務課 仁賀 0740-22-2238
独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 http://shiga.jcho.go.jp/				
全学年	病院見学会・施設見学、紹介 ・看護部紹介・教育体制紹介	・ホームページで案内 ・応相談	随時	看護部 077-537-3101(代) shigab3361@hyper.ocn.ne.jp
長浜赤十字病院 https://www.nagahama.jrc.or.jp/				
3～4学年	①病院説明会 ②インターンシップ	①H28.7.2(土) H28.7.23(土) ②H28.3～随時	事前	看護部 0749-63-2111 nurse@nagahama.jrc.or.jp
滋賀県立小児保健医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/				
大学生3・4年生、専門 門高校生2・3年生	病院見学・説明会 インターンシップ	随時（ホームページで案内） 応相談	随時（ホームページで案内）	看護部 077-582-6200(代) div-nur@mccs.med.shiga-pref.jp
市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/				
全学年	インターンシップ 病棟見学実習 介護技術見学 先輩看護師との座談会	平成28年7月25日(月)～ 8月26日(金) ※上記以外の日程にも対応		看護科長室 0749-68-2300（内線2222）
社会医療法人誠光会 草津総合病院 http://www.kusatsu-gh.or.jp/ghk/				
全学年対象	病院説明会、見学会、インターンシップ	病院説明・見学： 4/2(土)、5/4(水)、6/4(土) 7/2(土)、8/20(土)、9/17(土) 10/10(月) インターンシップ：随時	随時	看護管理室直通 077-516-2489
医療生協 こびらい生協診療所 http://www.shiga-mcoop.jp/kobirai/				
全学年	外来見学、在宅医療（往診、訪問看護への同行など）等	随時（応相談）	随時	事務担当 福塚 077-553-9696(代) kobirai@shigamin.jp

病院名・機関名					
対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先	
医療法人滋賀勤労者保健会 膳所診療所 http://shigamin.jp/					
全学年	外来看護、在宅訪問看護同行など	随時（平日）	随時	看護師長 石田 077-524-8114(代) zeze@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 坂本民主診療所 http://shigamin.jp/					
全学年	外来見学、在宅医療（往診・訪問看護・ケアマネ、ヘルパー同行など）、各種検査見学など	随時（応相談）	随時	事務担当 小西 077-579-7121(代) sakamoto@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 訪問看護ステーション 陽だまり					
全学年	訪問看護見学ほか	随時（応相談）	随時	所長 宮田 077-524-8256(代) ms-shiga@shigamin.jp	
医療生協 訪問看護ステーション なないろ					
全学年	訪問看護見学	随時（応相談）	随時	所長 横江 077-554-2390(代) ms-shiga@shigamin.jp	
医療法人滋賀勤労者保健会 訪問看護ステーション コスモス					
全学年	訪問看護見学ほか	随時（応相談）	随時	所長 松田 077-579-4022(代) ms-shiga@shigamin.jp	
浅井東診療所 http://www.hcfm.jp/access_soro/siga.htm					
学習者の学年・関心に合わせます		随時（半日～長期可能）	随時	0749-76-8111	
湖東記念病院 http://www.koto-hp.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介、施設見学）	通年、随時	随時	看護部 0749-45-5000(代)	
近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/					
2017年に4月に助産師・看護師として就職希望者	病院見学インターンシップ	随時（応相談）ホームページにて案内	随時	総務課 曲田 0748-33-3151	
医療法人社団仁生会 甲南病院 http://www.kohnan-shiga.or.jp/					
全学年	病院見学（施設見学） 看護部紹介 新人教育紹介	随時	随時	人事課 0748-86-5534 personnel@kohnan-shiga.or.jp	
医療法人社団阿星会 甲西リハビリ病院 http://www.kousei-rh-hp.or.jp/					
全学年	病院見学	随時 応相談	随時	総務課 飯田 0748-72-2881 info@kousei-rh-hp.or.jp	
済生会滋賀県病院 http://www.saiseikai-shiga.jp/					
全学年	1. 病院見学、募集要項説明 2. インターンシップ(希望の部署での看護体験)先輩看護師との昼食会 ※開催日時については、病院ホームページに随時掲載します	1. 随時 2. 3月・6月		看護部 事務 山中 077-552-1221 kango@saiseikai-shiga.jp	
彦根市立病院 http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp/					
全学年	病院看護部紹介 施設見学 新人教育紹介	随時（平日）	随時	看護部 0749-22-6050	
独立行政法人国立病院機構 紫香楽病院 http://nho-shigaraki.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介、病棟見学） インターンシップ(希望病棟の看護体験)	随時（平日） ※土、日、祝日については希望に応じて相談させていただきます。	平日9時から 17時まで	庶務係長 中野 副看護部長 森下 0748-83-0101 y-nakano@subsigaraki1.hosp.go.jp k-morishita@subsigaraki1.hosp.go.jp	
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 http://www.vories.or.jp/					
全学年	病院見学（看護部紹介）	随時	随時	看護部長 岡田 幸子 0748-32-5211	
滋賀県立精神医療センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seishin/					
全学年、2～4年生、3～4年生	病院見学、就職説明会 インターンシップ	随時、6月頃、7～9月末	随時、前日まで、随時	看護部副部長 大塚 077-567-5001	
滋賀県立成人病センター http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seijin/					
大学4回生、専門学校3年生	インターンシップ 病院見学	平成28年7月下旬～8日（土日祝を除く）	平成28年6月頃	看護部 鳥口 佳代子 077-582-5031 nb01103@pref.shiga.lg.jp	
公立甲賀病院 http://www.kohka-hp.or.jp/					
全学年	見学（院内案内・病院説明（2時間程度））	随時対応	随時	人事課 譽田 0748-62-0234 honda.m@kohka-hp.or.jp	

第1回 滋賀医科大学男女共同参画推進室

滋賀医科大学では、平成23年7月に男女共同参画推進室を設置し、仕事と家庭を両立するためのさまざまな取り組みを実施することにより、子育て中の女性医師をはじめ教職員のみなさまにとって働きやすい環境づくりに努めています。今回は、よくお問い合わせのある保育所「あゆっこ」の様子をご紹介します。

あゆっこの様子

保育所「あゆっこ」は、滋賀医科大学教職員（非常勤を含む）が養育するお子さまを保育する施設です。

通常保育の他に、病児保育や夜間保育（週1回）を行うなど、子育て中の教職員が安心して働ける環境を整えています。

スマート菜園'sで野菜栽培中



保育所「あゆっこ」では、野菜などを手軽に室内で栽培できる「スマート菜園's」が導入されています。これまで、レタス、いちご、ホウレンソウを栽培し、みんなで摘み取って美味しくいただきました♡

体操教室



毎月、外部から講師を招き、体操教室を全クラスで開催しています！



病児保育室



体育館側に専用入口あります！

夜間保育



先生がずっと付添ってくれるので安心して過ごしています！

教職員専用の

搾乳室

を設置しています



▲水道もあります

利用者からの要望を聞き、ロッカーや冷凍冷蔵庫を設置しています。利用終了後には、利用者のみなさまから「大変助かりました。」とお声をいただいています。※あゆっこをご利用の場合は、休憩時間に授乳に行くこともできます。

男女共同参画推進室について

男女共同参画推進室は**管理棟の3階**です！



男女共同参画推進室の実施制度や活動報告などの詳細は、男女共同参画推進室ホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください！！

<http://danjokd.shiga-med.ac.jp/>

滋賀医科大学男女共同参画推進室

検索



● お問い合わせ先 ●

TEL：077-548-3599

FAX：077-548-3653

E-mail: hqdanjo@belle.shiga-med.ac.jp

滋賀県医師キャリアサポートセンター

(滋賀県地域医療支援センター)

滋賀県医師キャリアサポートセンター専任医師(特任教授) 高橋 健太郎



平成28年4月1日より滋賀県医師キャリアサポートセンターの専任医師を拝命いたしました。

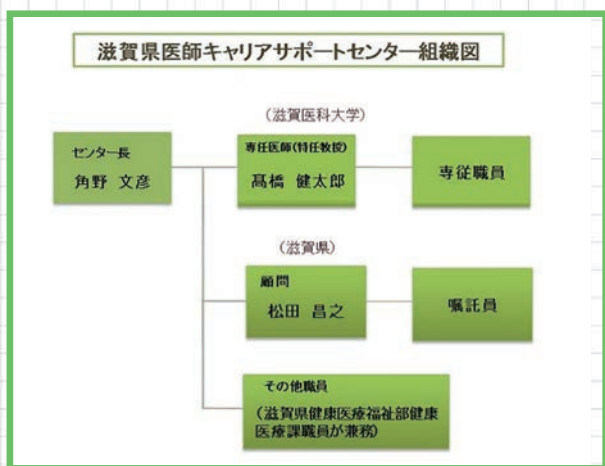
医学生、若手医師および女性医師の皆様が滋賀県で働く喜びを見出すためのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

滋賀県は出生率が全国2位の定位置を維持している年少人口割合が高いのが特徴で、「住み心地日本一の滋賀」を目指していますが、そのためには充実した医療の提供を欠かす事は出来ません。

当センターでは若手医師が地域に密着した、また、地域に信頼される医療人となるための、より魅力的な研修プログラムの提供や子育て中の女性医師の就労支援などを行います。

最後に仕事は魅力的で夢があり楽しくなければなりません。皆様が滋賀県でより楽しく働ける仕組みの構築のためにも、ご意見・ご要望をお待ちしております。

当センターは滋賀県健康医療福祉部健康医療課と滋賀医科大学医学部附属病院に設置し、滋賀医科大学医学部附属病院には専従医師を配置しています。



懇談会の様子

～キャリアサポートセンターでの取り組み～

- ・県内医療機関に就業を希望する医師・医学生への意向確認の面談
- ・県内の医師数実態調査に基づく、医師不足病院の把握・分析
- ・医師・医学生を対象とする懇談会、講座等の開催
- ・センターのホームページの設置、運営、管理
- ・センター業務に係る情報発信(紹介冊子の作成等)
- ・県内医療機関に就業を希望する医師や従事している医師からの相談への対応
- ・継続就業や職場復帰等を希望する女性医師からの相談への対応

●お問い合わせ先●

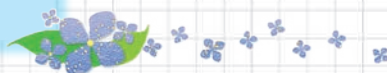
TEL: 077-548-3656

E-mail:

ishicsc@belle.shiga-med.ac.jp

joisodan@belle.shiga-med.ac.jp

(女性医師相談窓口)



滋賀医科大学医学科卒業生の卒後動向

◎ 2016年3月に卒業した医学生は進路をどのように決めたのか

滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学里親学生支援室長

滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門 准教授 **埜田 和史**

1. はじめに

滋賀医大を今春卒業した112人の医学生の卒後の動向を調査しました。2004年の新医師臨床研修制度導入後、医学生は卒後の進路を「自由」に選択できるようになったので、地域の医療の将来像が医学生の卒後の進路選択と強く結びつくこととなりました。そのため、全国の医学部・医科大学や研修病院では、医学生にとって魅力のある研修プログラムを準備し、また、学びやすい職場環境や研修しやすい職場環境の整備に努めています。学生も自分が望む研修先から指名が得られるように、卒業前の努力を重ねるようになりました。滋賀医療人育成協力機構では、卒業生の協力を得て、2012年度から医学科卒業生の卒後動向を調査しています。

2. 結果の概要

2-1) 研修先は

滋賀県内を研修先として選んだ卒業生は55人、県外を研修先に選んだ卒業生は57人で、卒業生のほぼ半数が県内に留まりました。人数的にも、率的にも、2012年度の調査開始以来、最も喜ばしい結果でした。研修施設についてみると、大学病院を選んだ人が51人、そのうち滋賀医大を選んだ人が36人、県外の大学病院を選んだ人は15人でした。大学病院以外の研修病院（以後、一般研修病院）を選んだ卒業生は61人、県内の病院が19人、県外の病院が42人でした。県外の一般研修病院を選んだ卒業生が目立ちますが、一般研修病院数は県外が900に対して県内は9です。また、一般研修病院を選んだ卒業生の中で滋賀県内の研修病院を選んだ比率をみると、過去3年間は15～23%でしたが、2015年度は31%と高くなっています。こうした結果から、県内の研修病院の魅力が卒業生に伝わりはじめたと判断できるかもしれません。

2-2) 卒後の研修施設を選択する時に、重視した事柄

卒後の研修施設を選択する時に重視した事柄の指摘率を、選択した施設やその所在地別に表に示しました。2015年度に滋賀県内に留まった卒業生が最も重視していたのは、大学病院にしても一般研修病院にしても、「研修プログラム」でした。この結果は、県内の優れた「研修プログラム」が卒業生を滋賀県内に留めたことを示しており、県内の研修施設の努力の現れとも言えます。大学病院と一般研修病院とで、卒業生が重視した事項の違いが目立ったのは「スタッフ等の雰囲気」と「賃金・休日等条件」でした。いずれも大学病院を選択した卒業生の指摘率が低くなっていました。私のように、大学教員の立場からすると、卒業まで教育指導で接する時間が長かったからこそ「スタッフ等の雰囲気」を理由に大学を選んでほしかったと思いました。

2-3) 後期研修の動向は

卒後2年間の初期研修後に後期研修が始まります。調査時点で、後期研修を滋賀県内で行うことを考えている人は、滋賀医大を選んだ人の72%、県内の一般研修病院を選んだ人の84%でした。2012年度からの経過を見ても、これらの数値は増加しており、滋賀県民にとっては頼もしい結果でした。

3. まとめ

今春の滋賀医科大学医学科の卒業生は、滋賀県内に留まる人が増えていました。医師としてのスタートを滋賀医大や県内の一般研修病院で始める医師が今後も増え続けるためには、より魅力ある「研修プログラム」の開発や、研修病院や地域の情報を医学生に届ける取り組みが求められます。まさに、NPO法人滋賀医療人育成協力機構の出番と言えます。

(表) 2016年3月医学科卒業生の動向

卒後の初期研修施設 所在地		大学病院								大学病院外の研修病院							
		県内				県外				県内				県外			
卒業年度 人数(人)		2012	2013	2014	2015	2012	2013	2014	2015	2012	2013	2014	2015	2012	2013	2014	2015
性別		男		女		男		女		男		女		男		女	
		67%	50%	59%	67%	41%	57%	42%	40%	78%	67%	88%	74%	56%	56%	65%	71%
		33%	50%	41%	33%	59%	43%	58%	60%	22%	33%	13%	26%	44%	44%	35%	29%
卒後の研修施設 を選択するに あたって 重要視した事項	研修プログラム	67%	57%	59%	78%	71%	29%	58%	73%	67%	67%	50%	74%	86%	85%	68%	57%
	研修施設の所在地	54%	32%	56%	50%	65%	71%	67%	60%	33%	58%	75%	42%	66%	64%	59%	45%
	賃金・休日等条件	13%	7%	22%	22%	24%	14%	17%	0%	44%	25%	13%	42%	30%	28%	27%	36%
	指導者	50%	50%	30%	36%	18%	0%	17%	27%	22%	58%	25%	32%	24%	36%	27%	38%
	スタッフ等の雰囲気	46%	50%	44%	28%	35%	29%	25%	33%	44%	58%	50%	68%	64%	82%	54%	62%
	施設の名声	4%	7%	0%	3%	18%	0%	8%	7%	0%	0%	13%	0%	0%	10%	8%	7%
	保育所等女性支援制度	4%	7%	7%	3%	0%	0%	8%	20%	0%	0%	0%	5%	0%	0%	3%	2%
	研究環境	8%	11%	4%	3%	12%	0%	25%	7%	0%	0%	0%	0%	6%	5%	11%	2%
現段階で考えている 後期研修施設 の所在地	家庭の事情	0%	11%	0%	3%	0%	29%	17%	27%	11%	0%	13%	0%	6%	15%	3%	10%
	滋賀県内	63%	61%	74%	86%	0%	0%	8%	7%	67%	67%	75%	84%	12%	3%	8%	14%
	滋賀県外	25%	25%	4%	6%	82%	100%	83%	93%	33%	25%	13%	16%	70%	85%	73%	74%
未定または未回答		13%	14%	4%	8%	18%	0%	8%	0%	0%	8%	13%	0%	18%	0%	8%	12%

開催報告

第7回「卒業後の自分を考える」 連続自主講座

小児科領域のお話を聞きたいという学生さんの要望で、平成28年1月13日に滋賀医科大学において、講師に**阪上由子医師**（滋賀医科大学小児発達支援学講座・特任助教、滋賀医科大学医学科19期生）、**中村美智看護師**（滋賀医科大学医学部附属病院看護部NICU/GCU6年目看護師、滋賀県立総合保健専門学校卒業）、**西澤嘉四郎医師**（近江八幡市立総合医療センター副院長、滋賀医科大学医学科3期生）をお迎えし、お話を聞かせていただきました。

阪上由子先生からは、子どもたちの命と健康を支える「メンタルヘルス」を中心にお話いただきました。ご自身は、滋賀医大卒業後は小児科へ入局、結婚、大学院へ入学、出産と順風満帆な人生を歩んでこられました。が、家人の介護、ご自身の病気と問題が生じて大学院を中退された後、小児科（発達外来）での診療に従事され、小児科学会専門医、小児精神神経学会認定医、医学博士の学位を取得され、現在は小児発達支援学講座の中核医師として勤務されています。

人生には色々な問題も生じますが、サポートしてもらえ職場の皆との和、お互い様という気持ちが大切とおっしゃっておられました。



中村美智先生からは、NICU・GCU病棟勤務看護師の仕事内容についてお話いただきました。ご自身は、滋賀県立総合保健専門学校卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に就職し、産婦人科病棟での勤務を希望されましたが、NICU（新生児特定集中治療室）・GCU（成長促進室）病棟の勤務になり、当初は、赤ちゃんの小さいことにびっくりし、聞いたこともない疾患や慣れない看護技術に戸惑い、こんな特殊な部署で看護師として働けるかな？と思われたそうですが、勤務も6年目を迎えておられます。

NICU・GUC病棟の看護師は、赤ちゃんの看護だけでなく、赤ちゃんのご両親の心のケアや、赤ちゃんの退院に向けての育児指導などご家族との関わりも大切とおっしゃっておられました。

西澤嘉四郎先生からは、小児科医の現状と小児医療供給体制についてお話いただきました。ご自身は、滋賀医大卒業後は小児科へ入局後、国立立川病院で勤務されました。その後、滋賀医科大学大学院を修了され、近江八幡市立総合医療センター小児科医として勤務されています。

一度滋賀県外に出て働いたことで、滋賀県の良さや大学の温かみがよく判りました。色々な経験を積むことが大切とおっしゃっておられました。

学生との懇談時に「学生が卒業までにやっておくべき事は、何ですか？」と質問した答えは、3先生とも「コミュニケーション能力を高めておくこと」でした。



♪ 参加された学生さんからの声♪

- 滋賀県の地域医療体制の話が興味深かった。
- これまで何となく小児科に行きたいと考えていただけで、小児科がどのような勤務状況なのかといった具体的な内容を知らなかったの、そういった話を聞くことができ良かったです。また、NICUについても少し興味を持つことができました。今後も様々な自主講座に参加し、視野をひろげて自分に合う科はどこなのか考えていきたいと思えます。
- 小児科医は、子どもだけでなく、家族(親)までしっかりみて支えていくことが求められるのだということがよく分かりました。また、患者さん及びその家族を支えるには、いろいろな職種の協力が欠かせないのも再確認しました。やっぱり大切なのはコミュニケーション力なのですね。
- 大変勉強になりました。特に阪上先生のご専門は興味を持っている分野でもあり、女性医師ならではの難しさについてももうかがうことができ嬉しかったです。
- 小児科でみた患者さんを大人になってからもみていくのは大変だなと思いました。小児が専門なのに成人患者を診察するのは矛盾しているなぁと感じました。
- 現場でご活躍されている先生方のお話を伺うことができ、自分の将来を考える貴重な経験になりました。
- 単純に子どもが好きだからという理由で参加しましたが、より興味を持つようになりました。
- 子どもの発達について興味があり、今回のお話をうかがえてとても良かったです。
- 現代医療において、社会面や医学面などの小児科という分野を知ることができてとてもよかったです。



開催報告

滋賀医科大学地域里親支援事業 「里親・プチ里親」対象FD研修会

里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域のみなさま）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人の心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年1回開催しています。今年は、1月21日にアーバンホテル南草津を会場に開催しました。



今回の研修会では、滋賀医科大学医療情報部 永田 啓教授から「変わる医学教育」と題して、国際基準に対応した医学教育のあり方について講演いただきました。

引き続き和やかな雰囲気の中、出席者の自己紹介などを含め意見交換や懇談が行われました。この研修会は滋賀医科大学里親学生支援室との共催で行いました。

開催報告

学生への教育・学生支援技術向上のためのFD・SD研修会 「医学教育における『態度教育』」

平成28年3月2日に滋賀医科大学において、岐阜大学医学教育開発研究センター長として活躍されている藤崎和彦先生をお招きし、岐阜大学医学部で取り組まれている態度教育の方法等について講演をいただき、その後意見交換が行われました。

午後5時30分からの講演でしたが、滋賀医科大学関係者のみならず、滋賀県内看護師養成学校の関係者や里親等約60名の方々に出席いただきました。

この研修会は滋賀医科大学里親学生支援室との共催で行いました。



総会報告

5月12日に平成28年度通常総会を開催しました

正会員の方々にご出席いただき、3つの審議事項を承認いただきました。

(正会員116名のうち79名が出席 うち表決委任者66名)

1. 平成27年度事業報告および決算報告
2. 平成28年度事業計画および予算計画
3. 役員を選出について

今年5月31日をもって現役員の任期が満了となることに伴い、新理事・監事が選出されました。新役員の任期は、平成28年6月1日～平成30年5月31日までの2年間です。

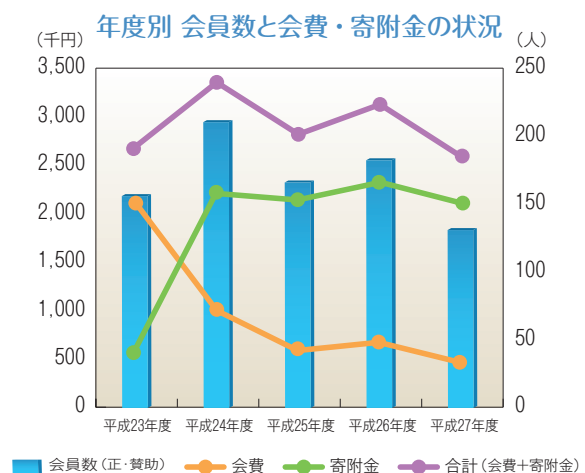
新役員の顔ぶれ

理事長	吉川 隆一	滋賀県健康福祉部参与
副理事長	小串 輝男	滋賀県医師会代議員会議長
//	服部 隆則	元滋賀医科大学副学長
理事	桑田 弘美	滋賀医科大学教授
//	埜田 和史	滋賀医科大学准教授
//	富永 芳徳	前滋賀県病院協会会長
//	花戸 貴司	自治医科大学滋賀県出身同窓会「さざなみ会」
//	廣原 恵子	滋賀県看護協会会長
//	松井 善典	浅井東診療所所長
//	三ッ浪 健一	公益財団法人近江兄弟社理事長
//	餅田 敬司	(株)日本看護サービス代表取締役
//	山田 尚登	滋賀医科大学副学長
//	渡邊 一良	滋賀医科大学同窓会「湖医会」会長
監事	桑村 隆	滋賀医科大学しゃくなげ会副理事長
//	西川 甫	公益法人滋賀県体育協会監事

会員の状況

平成23年7月に設立しました滋賀医療人育成協力機構はまもなく5年が経ちます。お陰様で、県内医療機関をはじめ多くの皆様のご協力とご理解を賜り活動を進めることができましたことをお礼申し上げます。

この5年間の会員数、会費の納入金額と寄附金の動きをグラフで表示しました。減少傾向になっています。新規入会のお誘いや、御寄附へのご協力をお願いいたします。



入会・ご寄附のご案内

平成28年度の活動を実施していくための年間必要経費は、540万円程度と計画しています。この経費を皆様からの会費とご寄附並びに滋賀県からの「地域医療を担う医師等育成事業補助金」で賄っています。

昨年度は、会費423,000円、賛助会費73,000円、寄附金2,173,170円、補助金2,000,000円、合計4,669,170円を頂戴し、経費の足りない分約100万円は昨年度からの繰越金を使用しました。

平成28年度への繰越金残額は2,009,923円です。このままでは、あと1～2年後には活動資金が足らなくなるのではと心配しています。

この現状をご理解いただき、出費がかさむ折とは存じますが、「地域医療を担う医学生看護学生の育成支援事業」にご支援いただける方々のご協力をお願いいたします。

会員は

会員の種類		会費		入会金（初年度のみ）
正会員	個人	年会費 2,000円	+ 寄附金 3,000円以上	5,000円
	団体	年会費 5,000円	+ 寄附金 5,000円以上	10,000円
賛助会員		毎年 1,000円以上	できましたら 3,000円以上	

ご寄附は

ご寄附いただく金額は決まっておりませんが、できましたら3,000円以上をお願いします。

入会・寄附に関するお問い合わせは、機構事務局（077-548-2802）にご連絡ください。

めでる誌上に、貴病院や企業からのメッセージを載せませんか！

ご希望の方は、滋賀医療人育成協力機構にお問い合わせ下さい。

編集後記



「寒さ暑さも彼岸まで」といいますが、3月24日・25日に実施しました春の宿泊研修では、春の訪れが遅い鈴鹿山系のふもとに位置する蒲生郡日野町・東近江市・永源寺地方を、冷たいみぞれが降るなか訪問させていただきました。

天候は寒かったのですが、訪問させていただいた日野町の皆さま、日野記念病院、東近江蒲生医療センター、東近江総合医療センターの皆さまには暖かく迎えていただき、参加学生は地域の方々からの暖かい励ましをいただき、多くのことを学ぶことができました。

お世話いただきました方々に改めまして感謝申し上げます。

今回は、県内看護専門学校生が3名参加していただきました。機構では、多くの学校からの参加者をお待ちしております。

さて、5月12日に平成28年度通常総会が開催され、今年の活動内容についての指針を決めていただきました。まずは、夏の宿泊研修で甲賀市・湖南市をお邪魔します。地域の皆さまのご支援とご協力をよろしくをお願いいたします。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでる」vol.10

発行：平成28年8月1日

編集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構

所在地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内

TEL：077-548-2802 FAX：077-548-2803

Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp

URL：http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/